

令和6年度 クラウドファンディング事業 効果検証報告書（中間報告）

【概要公表版】

埼玉県立精神医療センター
令和8年2月

はじめに

児童・思春期病棟に入院する患者さんのための教育環境の整備を目的にして、令和6年7月から9月にかけてクラウドファンディングを実施しました。結果として212人もの方から、当初の目標を大きく上回る8,815,000円もの寄附金を頂くことができました。

いただいた寄附金を活用してICT環境と農園の整備事業を進め、令和7年3月18日にはご寄附いただいた方をはじめ多くの地元関係者をお招きして、整備状況のお披露目をさせていただきました。

この報告書は、それから昨年9月末までの約半年の「成果」についてご報告するものです。

半年余りで目を見張るような顕著な成果が表れてきたということはありませんでしたが、今後もこうして定期的な検証を重ね、その結果を広く報告させていただくことで、クラウドファンディングでご支援いただいた方々のご期待に応えるとともに、多くの方々に当センターの取組をご理解いただくことにつなげたいと考えています。

今後も皆様に引き続きのご理解・ご協力を頂ければ幸いです。

令和8年2月
埼玉県立精神医療センター
病院長 黒木 規臣

1 クラウドファンディングの概要

- **実施の目的**

児童・思春期病棟の入院患者に対する教育・療養環境の整備

- **整備の内容**

ICT環境及び院内農園の整備

第一目標：PC、タブレットの購入、Wi-Fi環境の構築、農園の造成 など

第二目標：農園に東屋を設置

- **寄付募集期間**

令和6年7月17日（水）から9月14日（土）（60日間）

- **支援金総額と使途**

8,815,000円（寄附件数223口、支援者数212人）

【ICT環境整備約465万円、農園整備約260万円、その他委託料等約157万円】

オープニングイベント

- 令和7年3月18日、教育環境整備事業の完了に伴いお披露目を兼ねたオープニングイベントを実施した。当日は、ご支援いただいた個人や法人の代表者7名、地元伊奈町長はじめ来賓や医療関係者など総勢36名のご出席をいただいた。
- イベントでは、クラウドファンディング事業の活動報告、御芳名掲示板の除幕式、院内農園や児童・思春期病棟の視察を実施した。農園では、児童・思春期病棟の患者さんと病院長による記念の植樹をした。



2 ICT環境整備事業

(1) 整備事業の概要

- 整備費用 約465万円
- 児童・思春期病棟（第5病棟）に患者用Wi-Fi環境を新たに整備
- ICT機器の一律使用禁止が、入院環境と退院後の生活環境との間に乖離を生みつつあり、入院期間の長期化や再入院率の増加へと繋がっていることから、パソコンやタブレットなどのICT機器を病棟内で適正に使用するための環境を整備
- 県警の協力を得てサイバーセキュリティなどをテーマとするリテラシー教育を定期的実施しながら、治療プログラムの一環としてICT機器（パソコンやタブレット）を活用した学習支援や創作活動を実施

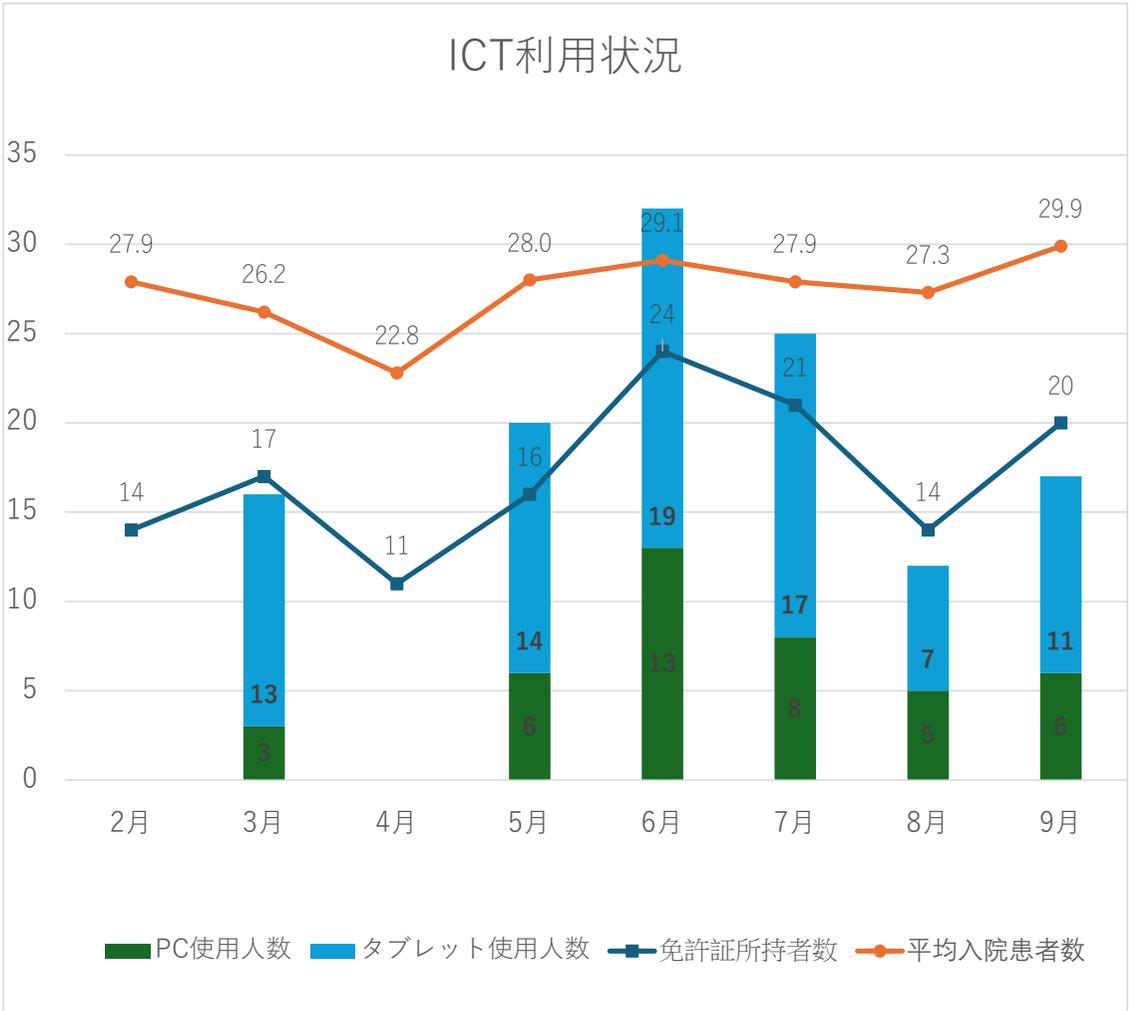
2 ICT環境整備事業

活動状況等の写真



(2) 実施状況

- 毎週火曜日と金曜日にICT学習時間を設け、1患者45分の利用時間を設定（事前予約制）し使用している。
- YouTubeで動画を楽しむ、ふと気になったことを調べてみる、タブレットでタッチペンを使って絵を描く、好きな音楽を聴く、などの用途で使われている。
- 埼玉県警察本部サイバー対策課の協力を得てリテラシー教育（講義）を実施のうえ、確認テストに合格した患者さんへのみ利用を許可した。
- 2月～9月までの参加総人数41名、確認テスト合格率は100%であった。



※PC、タブレットの使用について

3月から利用を開始したこと、4月は進級・進学による学習環境の変化に適応することを優先としたため利用休止にしたことから、2月と4月の使用者数はゼロである。

(3)患者さんからの 評価

ICTを活用している子どもたち
を対象にアンケート調査を実施し
た。

調査期間 令和7年10月

回答者数 10人

質問① タブレットやPCを使ってみようと思ったきっかけは？

- ・タイピングが早くできるようになりたいから
- ・テレビでみたから
- ・調べもの。推しを見たかったから
- ・好きなゲームの情報を検索したいから
- ・暇だから

質問② タブレットやPCを使うと、どんな気持ちになりますか？

- ・楽しい気持ちになる
- ・嬉しい

質問③ ICTがもっとよくなるためには、どうしたら良いですか？

- ・木曜日の午後にICTがあったら良い

質問④ 退院後に活かせるICTでの経験はありますか？

- ・タイピング
- ・ICTのテストの授業（情報リテラシー講義）がためになった

(4) スタッフの評価 ア 医師

- ICT環境整備は娯楽提供ではなく、現代の子どもの生活実態を治療に取り込むための基盤である。
- 入院治療の目的は病棟内の安定ではなく、退院後の生活リズムや自己管理能力の再構築にある。
- ICTとの適切な付き合い方（時間管理・刺激調整・情報との距離・対人関係の境界）が治療の中心課題。
- ICTを禁止するのではなく、安全な環境で適正使用を練習することに臨床的価値がある。
- 予約制や利用目的の明確化により、ICT使用を衝動・依存から切り離し、自己調整の訓練として活用できる。
- 進路調査・学習・家族連絡など退院準備にも有効で、患者の主体性を支える。

(4) スタッフの評価 イ 看護師

- 導入時の懸念（不正利用・逸脱行為・時間超過）に対し、リテラシー教育・利用前テスト・スタッフ常駐・モニター管理など多面的な管理体制を構築。
- ICT利用開始から6か月間、重大トラブルは発生しておらず、安全かつ安定した運用が実現。
- 利用時間を治療プログラムと干渉しないよう設定し、治療環境との両立が可能となった。
- 患者は余暇だけでなく進路検討など主体的な目的でもICTを活用し、自律性を育む場として機能。
- 一方で、利用者数の伸び悩みや曜日偏りが課題であり、利用時間帯の見直しが必要。

(4) スタッフの評価 ウ コメディカル

- 多くの患者はICTの危険性や影響を十分理解しておらず、誤った認識が退院後の生活で問題化する可能性がある。
- 入院中にICT教育を行い、適切な使用法や危険性への理解を深めることが不可欠。
- ICT環境整備は機器導入だけでなく、新しい付き合い方を学ぶ治療的な場の提供を含む。
- オンラインで学校と連携し、課題提出や教員とのやり取りが可能となり、学習支援にも寄与。
- ICT環境整備は退院後の生活安定を支える治療基盤として重要。

(5) 考察

- 患者・家族の受け止めが前向きで、安全に運用できている。
ICT利用を「遮断」ではなく「管理された練習」と位置づけることで、退院後の生活再建（睡眠・時間管理、学業・進路情報収集）を支える基盤になると期待している。
今後は病棟内外でのICT利用と睡眠・気分の関連、不適切使用の評価などを段階的に検証し、リテラシー教育を継続してICTを自律を支える道具へ転換したい。【医師】
- 導入前の懸念に反し、ICTが余暇や進路検スマートフォン利用を望む声が増えたのは、ICTを適切に使える自信の表れであり、自己肯定感の向上につながっていると考えられる。
討に活用され、患者の自律性を育む環境になっている。【看護師】
- 利用拡大のため曜日・時間帯の見直しを検討する。【看護師】
- 不登校経験などでICTリテラシー教育の機会を欠いてきた子どもにとって、ICT環境整備はマナー・ルール・リスク理解を補う重要な学びの場になっている。【コメディカル】

3 農園整備事業

(1) 整備事業の概要

- 整備費用 約260万円
- 農園全体を整地したうえで、農作業ゾーン、交流・憩いゾーン、管理ゾーンの3つのエリアに分けて整備
- 農作業ゾーン（畑エリア）では治療プログラムの一環として、患者さんがスタッフの支援のもと野菜や草花を育成
- 交流・憩いゾーン（芝生エリア）には東屋とハンモックを設置して、患者さんがリラックスできる環境を提供することで治療効果が高まることを期待
- 管理ゾーンには、収穫した野菜を使った簡単な調理ができるようにガーデンシンクを新たに設置



活動状況等の 写真

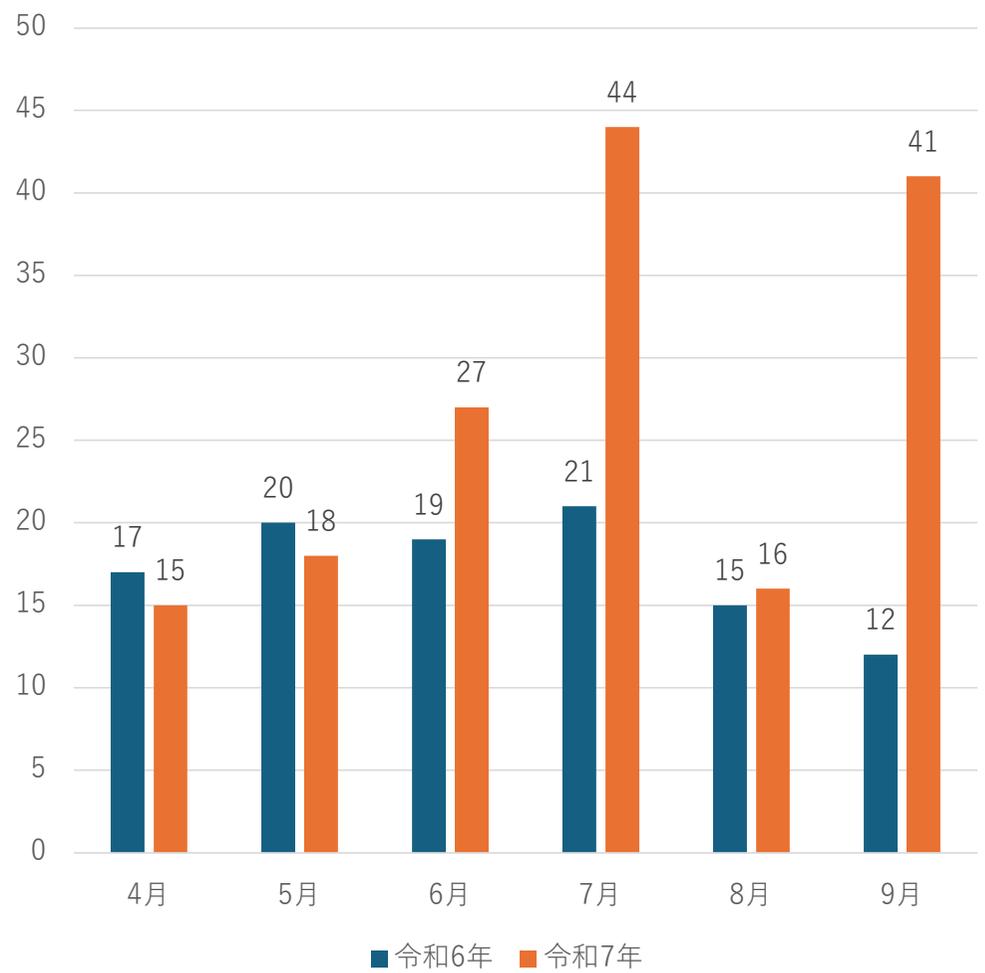


(2) 実施状況

ア 畑エリア

- 集団作業療法の一環として、園芸プログラム（通称「畑部」）を実施している。
- 「畑部」では、土づくりから野菜の栽培、収穫、調理までを体験することにより、役割意識や他者との協調性、労働と成果による充実感の獲得を目的としている。
- 患者は入部届を提出することで「部員」となり、日ごろの水やりに参加するなど畑エリアでの活動の中心的立場となっている。

プログラム参加者数(人)



(2) 実施状況

イ 芝生エリア

- 園芸プログラムにおいて畑作業に抵抗がある患者は、東屋で休憩したり、芝生のうえでカナヘビを追いかけてたりして過ごしている。
- 東屋ではリラックスして過ごすことが出来、芝生と東屋の組み合わせはゆったり、のんびりできる雰囲気を提供することが出来ている。
- やってみたいこととして「バーベキュー」や「ピクニック」が挙がっており、春や秋の過ごしやすい気候に合わせて屋外活動場所として活用していきたい。
- 保護室で隔離・拘束している患者も定期的に農園に連れ出して、スタッフと共に東屋で昼食やおやつを食べさせている。
- 園芸プログラム時以外に、これまで3回ほど個別作業療法で芝生エリアを使用している。

(3) 患者さんからの 評価①

畑部員を対象にアンケート調査を実施した。

調査期間 令和7年10月上旬

回答者 畑部員5名

質問② 一番印象に残っていることは？

- ・育てた野菜を畑部のみんなで調理して食べたこと
- ・でっかいキュウリがなっていたこと
- ・トカゲがいたこと
- ・チョウチョに会ったこと

質問③ 楽しかったことや嬉しかったことは？

- ・野菜を収穫できた時がやっぱり一番うれしかったです
- ・色々な植物を収穫できたこと
- ・色々な生き物を見れたこと
- ・トカゲを捕まえたこと
- ・みんなで水やりや草むしりに行けて楽しかったです

質問⑦ 色々な作業・活動をしてみてどうだった？

- ・自然に触れることで気分転換になって良かったです
- ・やりがいがあった
- ・楽しかった

質問⑧ 退院後に活かせるような経験は？

- ・みんなで協力して何かをすることは退院後も大切だと思いました
- ・植物の育て方を学んだから、家でも育てられそう
- ・畑をしたらこんなに野菜がとれると気づいたこと
- ・トカゲを捕まえられるようになった
- ・雑草は根っこからむしる

(3) 患者さんからの 評価②

農園に一度でも行った事がある
子ども達を対象にアンケート調
査を実施した。

調査期間 令和7年10月上旬

回答者 9名

質問① 芝生エリアや東屋（あずまや）の良い所は？

- ・休める、ゆったり出来る
- ・涼しくてきれい
- ・長靴なしで入れるところ
- ・東屋にいますと、直射日光にあたらず、日陰で良いです
- ・雰囲気が良い

質問② 芝生エリアでやりたいことはありますか？

- ・バーベキュー
- ・カナヘビを育てる
- ・ピクニック
- ・逆立ち

質問③ 農園に行きたいときはどんな時ですか？

- ・暇なとき
- ・外に出られない時、晴れてるとき
- ・虫がいない時
- ・日光に当たりたいとき
- ・暑すぎない日
- ・ブリッジしたいとき

質問④ 居心地や使い心地はどうですか？

- ・ちょうど良い
- ・最高です
- ・虫がいるから居心地は良くない

(4) スタッフの評価

ア 医師

- 農園整備は「余白の追加」ではなく、入院治療の基盤となる生活環境の質を高める核心的整備。
- 児童思春期治療の中心課題である「生活の立て直し」「関係の回復」を支える場となる。
- 安全に外気・自然へ触れられることで、情緒調整・気分転換・過覚醒の鎮静・睡眠リズム改善など日常の安定に直結。
- 農園活動は参加ハードルが低く、役割・達成感・協働・身体感覚の回復など治療的要素を自然に含む。
- 言語的介入が届きにくい患者にも、活動を媒介に治療同盟の構築や成功体験の積み上げが可能。
- 参加者増加や管理作業の広がりから、農園が病棟文化として定着しつつあることが示唆される。

(4) スタッフの評価

イ 看護師

- 農園整備により、農作業エリア・東屋・芝生が整い、自然に触れられる安全な屋外環境が確保された。
- 希死念慮や離院リスクのある患者にも、院内で自然に触れられる場として有効。
- 個別対応では医師・看護師・コメディカルがチームに関わり、食事会などの活動も実施。
- 栽培～収穫～調理～食事までの体験が、命の大切さや食の喜びを学ぶ道德教育につながる。
- 昨年度より参加者が増加し、農園が学びと体験の場として機能している。

(4) 考察 ウ コメディカル

- 以前は雑草・虫への対応に追われ、患者と作物を育てる本来の目的に十分取り組めなかった。
- 整備後は安全・快適な作業環境となり、芝生や東屋が気分転換の場としても機能。スタッフ・患者ともに作物への関心が高まり、患者が主体的に「水やり行こう」などと活動するようになった。
- 多くの作物を収穫し、その場で食べたり病棟で調理して皆で食べる体験が達成感につながった。
- 収穫物を院外の大人に提供し感謝される経験も得られ、社会的成功体験の機会となった。
- 農園整備は、畑作業を通じて多様な体験を提供する重要な取り組みである。

(5) 考察

- 農園整備後にプログラム参加や日常利用が増え、患者の主観的評価も良好である。一方で、農園単独の医学的効果を短期間で数値化することは難しく、生活リズムや情緒安定など入院治療全体を支える環境要因として捉えることが現実的【医師】
- 安全に屋外へアクセスできることは刺激調整や気分転換の選択肢を広げ、治療関係の形成にも寄与する。今後は参加状況や気分変化、個別支援での活用などを指標化し、環境改善として成果を可視化したい。【医師】
- 農園が希死念慮のある患者にも安全に自然へ触れられる場となり、リラクゼーションや食事会など多様な活動が可能になった。子どもたちが主体的に野菜を育て、収穫し、食べる経験を通じて命の大切さを学ぶ機会が増え、参加者も増加している。【看護師】
- 整備前は利用しづらかった農園が、整備後は多様な患者が参加できる場となり、自由度の高い活動の中で目的意識や他児との共有体験が育まれている。【コメディカル】

4 今後に向けて

○ 整備事業の活用促進

ICT機器については、スタッフの付き添いを必要とする運用となっているため、使用機会に制約が生じている。今後、患者さんのスマートホンの使用の是非について検討を進める中で、リテラシー教育の更なる充実や、クラウドファンディングで整備したICT機器の一層の活用について検討を進めていく。

また、学習の幅を広げるためのICT機器や農園の利用についてアイデアをいただいている埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校との連携を一層深め、検討を進めていく。

○ 継続的な検証と公表

今後1年に1回程度、定期的に検証を実施して、その結果を公表していく。